

【海外学会報告】

2023 年度 第 25 回韓国ケベック学会 参加報告
25ème Colloque de l'ACEQ (Association Coréenne d'Études
Québécoises)
Le samedi 18 novembre 2023, visioconférence (Zoom)

2023 年 11 月 18 日に、韓国ケベック学会の年次大会が Zoom 会議によって開催され、AJEQ (日本ケベック学会) からの登壇者として参加した。AJEQ からは、小倉和子顧問が視聴者として参加して下さった。大会のテーマは、Québec et Traduction 「ケベックと翻訳」であった。

10 時から、韓国ケベック学会の会長である SHIN Ok Keun 氏が挨拶をされ、ケベック州政府在韓事務所の代表がソウルから挨拶をされた。

第 1 セッションでは、コンコルディア大学の René LE MIEUX 氏、William ROY 氏の両氏による共同研究として、Les enjeux de la traduction de Harpoon of the hunter de Markoosie Patsauq en français と題された発表があった。マルコーシー・パソークは、カナダのイヌク族出身の作家で、1970 年に発表された Harpoon of the hunter 『狩人の銛』は、初めて出版されたイヌクティウト語の小説として知られ、大きな成功を収めた。負傷したホッキョクグマを追う危険な狩りの最中で成人していく若き英雄カミックを中心に、過酷な環境で生き残るために奮闘する人々を描いた驚くべき物語で、イヌイト自身の記憶の中に生き残った伝統的な生き方を浮き彫りにした。英語、フランス語をはじめいくつかの言語に訳されたが、そこで問題になってきたのは、翻訳という過程を通して、一般読者に合わせるために、先住民特有の文化的要素が殆ど無視されてしまったことである。報告者の両氏は、そこに先住民文学の翻訳が陥る「植民地主義的」な問題点を指摘する。その後、幾多の変遷を経て、2021 年のフランス語版第 2 版の翻訳では、作者自身の序文や先住民語の記載や図版など、パラテキストの要素を数多く取り入れ、英語版の翻訳では欠落していた文化的要素を再生させた翻訳が試みられたことが興味深い資料とともに報告された。

第 2 セッションでは、真田が、La poétique de la traduction chez Jacques Brault

et la littérature japonaise : à la lumière de *Trois fois passera* と題した発表を行った。短歌や俳句など日本文学に深く通曉していた、ケバックを代表する詩人の一人であるブローは、同時に英語からフランス語への詩の翻訳も多数手掛けた優れた翻訳家として知られている。そしてブローの創作の根幹には「翻訳の詩学」とも呼ばれる、沈黙や匿名性への志向、他者への迂回を通して自らを認識するという寛容さに裏打ちされた独特の美学があり、その作品のなかに、翻訳において拓かれる自己でも他者でもない、第三の次元の象徴として日本文学が立ち現れていることを分析して報告した。発表は、「詩学」に関わるかなり観念的な内容で、日本文学への傾倒なども含むため、韓国の ACEQ 会員に理解してもらえるか不安であった。しかしその様な思いは杞憂であった。討論者として登壇された YOO Jae Hwa 氏は、翻訳家としても活躍されているとのことであったが、筆者の原稿を事前にしっかりと読みこんで深く理解しておられ、質疑応答では、こちらの見解を補足補強してくれるような有益な指摘にも恵まれ、ブローの「翻訳の詩学」には言語の違いを超えた普遍性があることを実感できた。日本での学会発表においても、これほど手応えを感じるやり取りは稀であったため、実に励まされる思いであった。他の何人もの ACEQ 会員からも、次々に「興味深い発表だった」とコメントをいただき、有難い思いで一杯であった。

午後の第 3 セッションでは、すでに来日し日本ケバック学会にも参加されたことのある HAN Dae Kyun 氏による *Sur la traduction de la poésie de Gaston Miron* と題された発表があった。HAN 氏は、自ら韓国語への翻訳を行ったケバックの国民的な詩人であるガストン・ミロンの詩の翻訳において、パウル・ツェランやポール・リクールなどの哲学者の詩論を援用し、文化的、社会的文脈を反映した翻訳がいかに重要であるか、またミロンの詩の音韻にもその文脈が反映されていることを興味深い例示によって明らかにした。それに続いて、KO Hye Sun 氏による *Fidélité et lisibilité dans la traduction littéraire : le cas de La grosse femme d'à côté est enceinte*, の報告があり、次に KWON Ji Hyun 氏による *Traduire Elise Gravel, auteure de jeunesse Québécoise*, との報告が続いたが、発表スライドも報告も大部分が韓国語であり、筆者も都合により途中でオンライン会議を退席せざるを得なかったため、残念ながらそれらの発表を拝聴することはできなかった。

オンライン会議という制約のある機会ではあったが、事前にこちらの原稿をしっかりと読んでくださった討論者との実り多いやり取りから、研究にグ

ローバルで新しい視野が拓け、研究者冥利につきる思いであった。今後のAJEQとACEQ、あるいはカナダの研究者との研究交流においても、事前に十分準備をして対応することが極めて大切で、建設的な結果を生むことになると実感した。これからも、AIEQとの繋がりも含め、両学会の交流を深めていくことはケベック研究の発展に大きく寄与していくものと思われた。

(真田桂子 阪南大学)